

I 算数科 研究テーマ

個々の問いをもとに、主体的・協働的に学びをつなぎ、数学のよさを見いだしていく子どもを育む学び

II 研究の重点

自ら数学的概念を獲得し、学びを更新していくための支援の工夫

III 2年次の成果と課題

1 成果

(1) 生活の中から算数の問題を見付け課題を自分事にする工夫

2年次は、「一人一人が自分事として捉えることができる課題設定にすることで、単元を通して『学びのものさし』を働かせたり更新したりする子どもの姿を引き出すことができるのではないか」と考え、実践を進めてきた。

子どもたちの生活の中に、算数で解決できる事象はたくさんある。そこで、単元の導入などで一度立ち止まって、生活の事象を算数の視点で見つめる時間を設けた。また、遊んでいる最中や特別活動の時間など、算数の学習以外の時間でも、子どもたちの言動から算数の事象を捉えていることを見取り、課題設定に生かした。さらに、試行錯誤しながら具体物を操作する活動、体験的な活動や子どもの興味・関心に沿った身近な人を映像化した問題なども取り上げた。その結果、遊びから算数の学びを見付け学習を進める姿や、個々に学習の課題を見付け追究する姿が見られた。また、自分が考えたことを友達に教えようと、自然にペアやグループでの学習の場が展開された。自分事になった課題を追究しようとするのでそこで生まれた疑問に照らして「学びのものさし」を働かせて、何とか解決しようとする粘り強さが生まれた。また、解決していく過程で「学びのものさし」を更新する子どもの姿も引き出すことができた。



このことから、生活の中から算数の問題を見付けたり、算数の学習以外からも算数の学習につながる疑問を取り上げていったりすることは、自分事の課題を生み出し最後まで学習を進めたいという継続的な学びの意欲を引き出し、「学びのものさし」を更新することにつながったと考える。

(2) 個々の学びと協働的な学びが往還しながら統合的・発展的に考える授業づくり

自分たちで見いだした「学びのものさし」や自作問題をICTを活用して、子どもたちは個々に蓄積してきた。また、必要なときに互いに見合ったり互いに問題を解き合ったりできるように共有した。このことにより、単元の中でもう一度立ち返りたい内容を見返す際に役立てたり、自分の間違いを修正したりする姿が見られた。さらに、関連した単元を学習する際に、統合的・発展的に考えることに生かすことができた。

個々で考える時間、グループで考える時間など活動を区切らずに展開し、子どもたちに学びの進め方を委ねる時間を設けた。これにより、友達にアドバイスを求めに行く、自分でじっくり進めるなど、必要なことを考え学びを進める自律した姿を引き出すことができた。

このことから、ICTを活用した学びの共有や個々に進める学びと協働的な学びを選択する学習過程は、自ら進んで学びに向かう自律した子どもの姿を引き出すことにつながったと考える。

2 課題 自分の言葉で自らの学びを説明する力を高める

課題が自分事となり、単元を通して学びを進めていく姿を引き出す手立てとしての手応えはあったが、答えを導き出すというゴールまでたどり着いても、どのように課題を解決したかを相手に分かりやすく説明することには課題が残った。自分自身の学びを見つめ直し、課題解決の道筋について自分の言葉で相手に分かりやすく伝えるためにも、まとめや振り返りの時間を工夫した授業展開を模索したい。